

会報アーカイブ（随時掲載）

*第一〇五号（二〇一〇年九月発行）

早魃かんばつの中、百年に一度の大洪水（抜粋）

中村 哲

世紀の大洪水

（略）七月二七日に降り始めた雨は、断続的な集中豪雨を伴い、厚い雨雲が幾日も留まっつて梅雨のような状態でした。乾燥地ですから、初日は皆喜びました。しかし、例年と違うのです。

アフガンには雨季が二度あり、冬季と夏季にやってきました。このうち、土地を潤して農業の支えとなるのが冬の雨です。梅雨

のような小雨日が多く、小麦を育てるだけでなく、高山に雪を降らせ、万年雪を絶えず補充していきます。

「アフガニスタンではカネがなくとも暮らせるが、雪がなければ生きられない」という諺ことわざをいつも紹介しますが、この積雪が夏に解けだして河沿いに豊かな実りを約束してくれるのです。白い山の雪は巨大な貯水槽の役目を果たし、恵みの象徴です。近年の温暖化で、この雪が一気に解けて洪水と

濁水が同居し、農地の沙漠化が急速に拡大していることは訴え続けてきた通りです。

対照的に夏の雨は、局地的な集中豪雨が大半で、恵みより被害の方が多いように思われます。しかし、普通は夕立に近い通り雨で、長雨にはなりません。

ところが、今年は違っていました。インド洋に発する夏のモンスーンが巨大化して北上、カラコルム・ヒンドゥークシュ山脈の北部と東部に大量の降雨を起こしました。インダス河の流域は、ことごとく大洪水となり、厚い雨雲が去りません。

私たちが関わってきたクナール河やカーブル河も例外ではありませんでした。降雨二日目から河の水位がぐんぐん上がり始めました。マルワリード用水路の取水口では、二〇〇五年の最高水位を一メートルも上回

り、激流が襲いかかりました。幸い五年の歳月をかけた改修の成果で難を免れましたが、恐るべき水勢です。頑丈な堰は残ったものの、対岸の広大な中洲が七月二十九日、一挙に洗い流されて消えてしまいました。

守られたマルワリード用水路

二五キロメートルの用水路内でも、至る所で鉄砲水に遭遇、特に新しくできた場所の決壊が危ぶまれましたが、殆ど無傷でした。大きな貯水池をいくつも作ったのが幸いして、水害を起こしませんでした。特に、ガンベリ沙漠の岩盤周りにある通称「Q2大池」の決壊は悪夢で、流入する水量は並みのものではありません。普段なら三〇センチ（水門付近）の水深で流れるのが、最高八〇センチに達しました。実に三万五千トンが一日で貯留したことになります。このため、各区の排水門を緊急に開放しましたが、排水路網の整備が役立ち、水害は起きませんでした。目立たず二年間積み重ねられてきた努力が真価を發揮したのです。用水路に頼る三千ヘクタールの農地は守られました。私たちのガンベリ試験農場の田畑も影響なく、水田の稲が青々と育っています。

穀倉地・カマ郡の被害

他の取水口のうち、シェイワ用水路は完璧に守られていました。最も被害を受けた

のはカマ取水口です。カマ郡は面積七千ヘクタール、人口三〇万、ナンガラハル州で最大の耕地と人口を抱えています。「カマ郡の豊作・不作がジャラバードの穀物価格を決める」と言われるほどです。しかし、ここでも渇水による沙漠化が進み、歴代の政権の手によって多くの取り組みが行われたものの、成果が上がりませんでした。このため、一時は人口が半減したと云われています。最も多くのアフガン難民を出したのも、この地域でした。「カマの取水口は絶対に成功しない」というジンクスができ上っていたのです。

さて、ここに二〇〇八年十二月にPMSが着手した二つの取水口があります。仮工事に近いものでしたが、一時は全カマ郡を潤し、多くの避難民たち（約十万人）が帰農しました。PMSがマルワリード用水路で日本の堰の技術を会得、その成果が確かめられると、次々と他の取水口に応用されていきました。なかでも、カマ郡の取水堰建設は最大のものでしたのです。

この貴重な取水口が、今回の大洪水で相応な被害を受けました。第一取水口では、急上昇した河の水位が土手を越えて流入、主幹用水路を土砂が埋めつぶしてしまいました。

第二取水口は、七月三〇日、仮工事中の水門を破壊して濁流が滔々と流れ込み、手

のつけられぬ状態となりました。カマ郡村落の一部も浸水しましたが、七月三十一日、PMSが突貫工事を開始、水路内に流入した洪水路を切り崩し、辛うじて犠牲を避けました。

しかし、対岸のベスード郡低地は浸水が激しく、多くの村落が孤立しました。周辺の地域を入れると、約八〇名が犠牲になったと報ぜられました。その後も断続的に豪雨が襲い、水がようやく引き始めたのは八月中旬のことでした。クナール河は、九州の三倍以上の流域面積があります。ヒンドゥークシュ山脈東部・北部全域の降雨が一度に起これば、恐るべき状態になることを、身を以って知りました。

大洪水下の空爆

それでも、アフガニスタンの被害はパキスタンに比べると小さなものでした。その後の報道は胸を痛めることばかりでした。日を追って発表される犠牲者の数が増え、「パキスタン全体で被災者二千万人、死亡確認一五〇〇名、建国以来の犠牲」と伝えられました。

しかし、最大の打撃を受けたペシャワール付近、東部アフガン、カイバル・パクトゥンクワ州（旧北西辺境州）は、天災に加えて人災です。こともあろうに、米軍の空爆が休むことなく続けられ、「危険地帯」とさ

2023年カレンダー

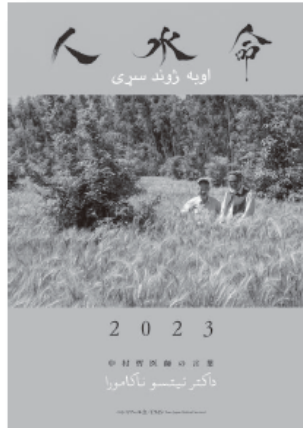
「人命水」

制作 ペシャワール会/PMS

B3判カラー

写真 13点+中村哲医師の言葉

定価1500円(税+送料込)



今年もカレンダーを制作しました。アフガニスタンの人々の生活に焦点を当てた写真に、中村医師の珠玉の言葉を添えています。ぜひお買い求め下さい(ご友人・知人へのプレゼント発送も承ります)。※お申し込みは同封の用紙、またはHPから。代金は後払い。払込用紙を同封します。

れて救援の手が届かない状態が続いています。ある地域では、遺体を収容しているところを爆撃され、罪のない村民二十数名が即死、多くの負傷者を出しました。こうして、復讐を誓う者たちが日々激増しています。欧米軍は道義的に既に敗北しました。数百年に一度とも言われる大洪水に対して、私たちは人の無力さを覚えるだけでなく、天災さえ利用して殺戮をほしのままにする精神の荒廃、力に屈して弱者の立場に立てぬ臆病と無関心の蔓延を見ます。同じことが欧米諸国で起きたら、連日の大騒ぎとなったことでしょう。

同じ頃、コレラ大流行の危険が迫り、わがダラエヌール診療所でも死亡者が発生、現在まで約二〇〇名が治療されています。アフガン東部とパキスタン北西部で大流行するのは確実と見られています。昨年日本で「新型インフルエンザ」騒ぎがありました。

その時を思い浮かべ、格差は仕方ないとは思っても、何だか悲しくなります。

最大の挑戦

さて、今秋から私たちは大きな挑戦に乗り出します。「数百年は使える用水路」と豪語しても、取水口と取水堰は自然の猛威に十分に耐えるものでなければなりません。また、今回のような大出水の際、対岸の被害を増すものであってはなりません。(略)

一般に大河川の工事は物量が必要で、マルワリード用水路でも予算の半分近くが河周りの工事に充てられました。自然と人為との危うい接点が取水堰と護岸です。相当な努力と協力が欠かせません。

今回の災いを福に転ずべく、同農村地帯で生活する六〇万農民の生存を賭け、文字通り死力を尽くしたいと思えます。平和は戦争よりも努力が要ります。遠からず外国

軍は疲弊して去り、アフガンの話題も遠くでしょう。しかし、そこで暮らす人々はどこにも行き場がありません。どんな戦争熱も、憎悪をおおるヒステリックな政治宣伝も、私たちにはあまりに縁遠いものです。ひたすら豊かで平和な緑野を夢見て、汗を流すだけです。

変わらぬ温かいご支援、ご関心に感謝いたします。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますようお願い致します。

▼未使用の切手、書き損じハガキ(官製ハガキ・年賀ハガキ)をお送り下さい

*引き出しの中などに眠っているものをお送りいただければ幸いです。会報発送等に使用させていただき大変助かっております。なお、外国の切手は取り扱っておりません。

▼現地活動を紹介するパンフレットをお送りします

*ペシャワール会の活動をご紹介されるときにお使いいただけるものです(払込用紙がついてきます)。ご希望の方は事務局にご連絡下さい。パンフレットはA3変形を四折りましたもので、長形の定形封筒に入るカラー版です。なお、パンフレット、会報等は受け取る意思のある方への配布を原則としております。(ポストイング等は御遠慮下さい)